

矢度シトニ爾略○中 婆施バシ稽矩キコ謨モ伊麻娜イマダ以イ幡孺底ハダ阿開アケ爾ニ啓梨ケリ倭蟻慕ギキ

〔萬葉集十一〕古今相問往來歌正述心緒

人所寐ヒトノスルウ味宿イモテ不寐ハシキヤ早敷シキガメチ八四スラ公目尙欲嘆ホシミナククカ

〔狗猶集六〕夜雪の心を

夜ふるをしらぬは雪やねいりばな

〔倭訓栞中編二〕いぎたなし。寝きたなき也。ねごきをいふ、

〔源氏物語二〕鳥もなきぬ人々おき出て、いといぎたなかりけるよかな、御車ひきいでよなどいふなり、

〔攝津名所圖會三〕難波村午頭天王綱引

每歲正月十四日、産子の人は左右に分列して、大綱を争ひ引て、其勝方其年福を得るといふ、さい

つ頃、當國池田にも、此祭事ありて、十六七才ばかりなる角前髪の男、此綱引に出て、互に引争ひ終

りて、我宿に歸り、食もくはず、轉ながら寢て、起せども起ず、三日半續け、寢にしたるといふ、

〔運歩色葉集幾〕御寢

〔書言字考節用集九〕御寢言辭成

〔類聚名物考言語七〕ごしんなる 爲御寢

音語なり、俗におしづまるといふことは同じく、御鎮の意なり、

〔今昔物語二十四〕藤原爲時作詩任越前守語第三十

今昔、藤原爲時ト云人有キ、略○中年ヲ隔テ直物被行ケル日、爲時博士ニハ非トモ、極テ文花有ル者

ニテ、申文ヲ内侍ニ付テ奉リ上テケリ、略○中内侍此レヲ奉リ上ゲムト爲ルニ、天皇條○一ノ其ノ時

ニ御寢ナリテ不御覽成ニケリ、